

100年後の森林の姿について

～過去、現在、未来～

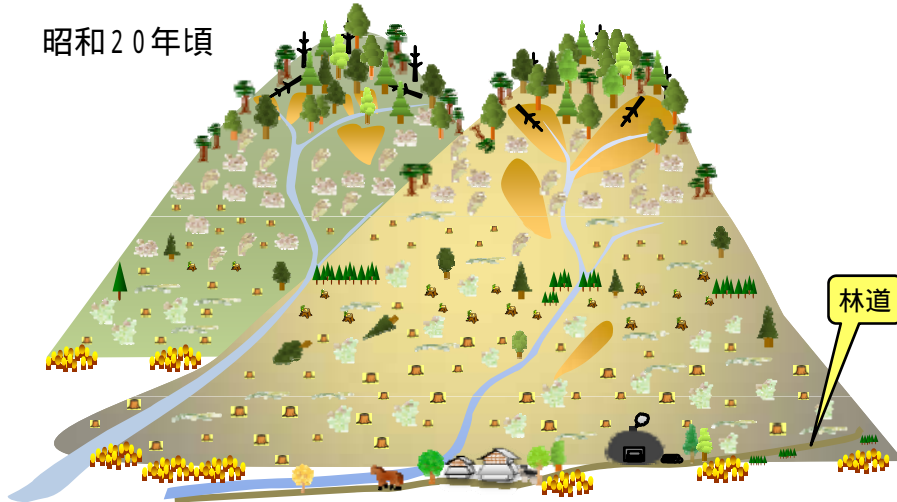
平成23年7月
林野庁

昭和40年頃までの森林の姿（イメージ）

戦中、戦後は、戦争資材や戦災復興資材を供給するため全国的に伐採が進み森林が荒廃。昭和20年代には各地で大規模な水害・土砂災害が発生。

昭和25年に造林臨時措置法、昭和26年に森林法が制定され、国・地方公共団体が一体となって伐採跡地への植栽を積極的に実施。昭和30年代には、高度経済成長の下で増大する木材需要に対応するため、「拡大造林」を推進。

昭和20年頃

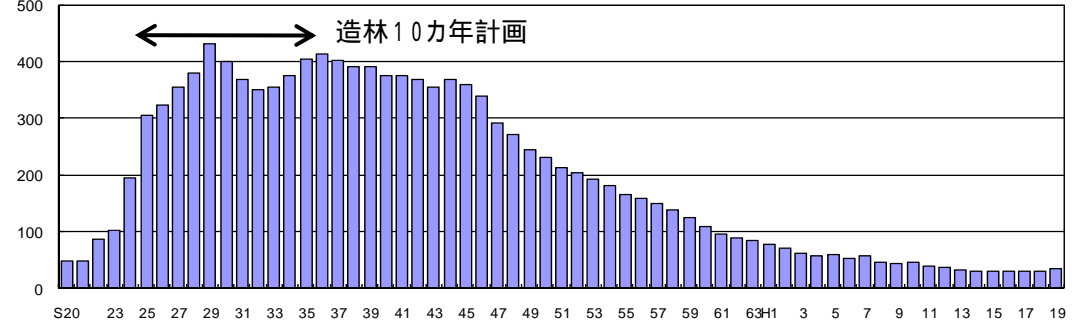


(森林蓄積: 昭和27年 17億 m^3)

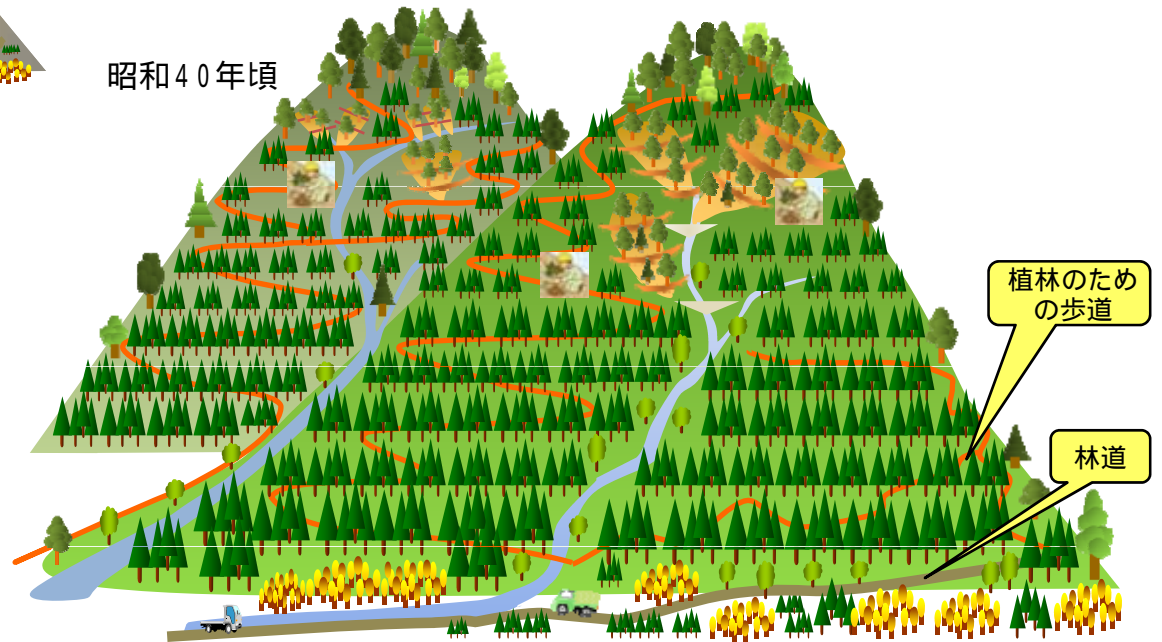


荒廃の進んだ森林に植栽が行われた様子

千ha 人工造林面積の推移



昭和40年頃



(森林蓄積: 昭和41年 19億 m^3)